夕刊
# 磐城新聞
四月十三日發行
定價 一ヶ月 金… 發行所 磐城新聞 合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八〇五六五番

**天氣豫報** 小名濱測候所發表
今晩は北西の風曇後晴
明日は南の風晴

# 四人の女
津手生

（十）

お答

後になつて判つた事だが吾八の云つた事は出鱈目で本人は何所の者でどんな經歴の女か丸で分らない。西の方の人らしいと云ふ事、十年前玉木屋にゐたお答と同じく女術に攫はれて賣り飛ばされ、其後各所を放浪して來たらしいと人が推測するだけで、本人は何も語らない。極端の偏屈な、癖み根性が骨の髓まで徹してゐる生まれて初めて見る無愛想者で洗ひざらしの單衣を裾を引摺つて着、模様の分らぬ帯をダラリと結んでゐる姿と、潰れた目と卑らしい赤ら顔は都の人に乞食と見違へられるやうな女であつた。家人とも他の雇男とも殆ど口をきかない。命ぜられた事を好い加減に片づけると、部屋の隅に行つて蹲つてゐる。注意されたり小言を云はれると誰彼の見境ひなく口答へする。大きな圖体をして居り、何かと云ふとつぶれた目をむくので屈強な雇男達も手が出せない。雇はれて來た二日目お兆は庖丁で桑を切つて居たら過つて指を怪我し血を滴らしてゐるのを見た母は直ぐ傷藥と小切れを持つて行つて、痛からうとお附けと云つて渡さうとすると、餘計な事だとほざいて母には目も呉れず、腰に下げた煮染めたやうな手拭を口で割いて、傷口に桑の葉を揩り附け其上を卷いてそして佛頂面して又桑を切り出したので、母はほんとに恐ろしかつたと話してゐた

私は默つて二、三日此の變な女を見てゐたがふと當時愛讀した『噫無情』の中でエミ！に僧正が惡漢ジャンバルジャンを愛の至情で改悛させたくだりを思ひ出し、そして俺も僧正の眞似をして此の頑迷な愚婦の結ばれたかを少しでも解きほぐして見ようと、氣障な途方もない願望を起した。夫れ以來は凡ゆる機會を利用して彼女の上に私の好意と愛撫を惜しみなく發揮する事を敢てした。ニコニコ顏をしてお早うと挨拶する。疲れたらうと勞つてやる。早く御飯をお上りと勸める。勿論答禮も返辭も得られないが覺悟の前だ。相手に構はず、出來るだけ彼女に接近して仕度を手傳つてやる。蠶籠の除桑や、繭掻きの如きは二人の共同作業が能率的で有るが、誰もお兆と組む者は無い。私は望んで彼女と一緒に仕事をし、成るたけ彼女の勢を少くして一倍私が骨を折つてやる。桑摘みに行く時は精一杯働いて彼女の手助けをする。野良では朗かに木曾節や伊那節を歌つて聞かせる。こんなにして十日程は何の反應もなかつたが、或日私はお兆と畑で仕事をしてゐた時ふと西の空を眺めると山の邊近くに一筋の雲がかゝつてゐた

**散策**　森 勇太郎

○松の幹みな照りはねて燃えたちぬ　朝陽まぼしみ嶺を登りゆく
○吾もまた陽の朱けに染み歩みゐむ　松の林にかげ移しつゝ
○滞こゆとほの暖き吾がはだのにほひ立ちたり春の野を行く
○日の暮れの中空低く鳳なりす　ガソリンくさき春塵を浴ぶ

春雨

○春雨に車輪の響き空轉す　受驗する子らのせてゆきけり
○日暮るゝ頬にはてりののぼりくる　闇さうしさに灯を早くつく

**4月14日**
△高杉晋作歿（慶應三）△元老・大審院設置（明治八）△滿洲國治外法權撤廢具体案決る（昭和一〇）△松江市大火二百八十九戸全燒（同一二）

りくの日

○

北の山さゝらの梢に見ゐて　一碧樓

**早堀切代議士**　珠雲 小野務平
滿腔經綸答聖明
時艱不許臥都城
榮冠也上高人頂
畢竟蒼天與至誠

**講談**
# 髑髏組（どくろぐみ）
（163）林 李兵衞作　金子 士郎畫
悲戀の地獄遊（一）

『では、どうあつても、お別れ致さねばなりませぬか』

『許してくれ』

刑部は、強く振り拂つてそのまゝ庭の暗に紛れた。

幾代は、慌てて其の跡を追はんとして廊下まで出たところを、主膳正に引止められた。

『幾代、行かしてやれ、刑部にも何か深い考へがあるであらう』

幾代は、凝つと涙の眸で暗の彼方を見送つてゐたがやがて、堪らぬ氣持で、主膳正の膝下に泣き崩れた。

『き、乾度あの人は、お、お果てなされるに相違ありませぬ。あゝ、妾、妾は』

それでなくとも、物淋しさが犇々と身に迫る春の夜の靜寂へ、幾代の身も世も荒らかつた。

あらぬ咽び泣きが、戀情の波紋を描いて、漆の暗へ滲み出て行く。

『なアに、それ程に心の狹い刑部ではない、心配致すな。今に吉報を齎らさう』

さう云つて、口では幾代を慰めて居るものゝ、主膳正も内心窃に刑部の行動を憂慮した。

櫛引の屋敷を飛び出して宙を飛ぶやうに韋駄天走りの島宗刑部、其の目的は何處にあるのか、夜目にも刺る、物凄い決意の形相だつた。

○

星の綺麗な春宵の夜が、幾多の大波瀾を秘めてほのぼのと明け初めた。

灰色の夜の靜寂がまだ總ての物を蔽つてゐる。弱々しく光りツぐらした小さな星が、空の荒寥たる深みに消へて行かうとする時、六つを打ち出す上野の鐘が、大江戸に張り詰めた冴かい朝霞を搖かしてゐる。

その頃。

湯島天神の杜では、刑部は、髑髏組の首領上總權十郎と、最後の交渉に決裝を生じてゐた。

『ではこれ程、事をわけて賴んでも、どうでもけよ限り、仲間を去ると云はれるか』

固い刑部の決心を、最早は到底飜すことは不可能なことを知つた權十郎の言葉に、

刑部の、沈默は不動だつた。

『だが、昨夜の仕事は明かに失敗だつた。それでは貴公、立派な約束を果したとは云はれまい。子供を返して欲しければ、今少し完全な仕事をする事だ』

『……』

『出來ぬ、と云はれるか』

『子供は、子供は何處に居る』

『それを訊いて何んとする――』

『場合に依つては』

刑部の面上をかすめた一抹の殺氣。

飽くまでも甘く見てゐた權十郎には、そうした、刑部の殺伐な形相を感知することが出來ない。

『場合に依つては、もう一度、仕事を手傳つてもいゝと云ふのか』

『それでもいゝ、何處に居る』

『それなら解つた話だ、子供は、勘コロ忍籠屋に預かつてある、だから安心してもう一度だけ』

『仕事のことならお斷りだ……』

『何んだと』

『開き直つて何んとする』

『それぢや矢ッ張り仲間を裏切る氣だな』

『無論、可哀相なあの子のためにも』

『云ふな、卑怯者ッ』

叫ぶや、拔き打に、不意を狙つた權十郎の烈劍。刑部は、輕くツイと飛び退いて、劍尖を避けた。

次回讀物豫告
# 隠密小天狗
中川雨之助氏作
近藤鐵氏畫

目下本紙に連載中の講談は、讀者の喝采裡に愈よ近日中に完結を告げることになりました。その次には更に一層讀者の歡迎を受ける新讀物をと、とくから詮衡を重ねた結果、左記の一大雄篇を選定して讀者の淸鑑に供することに決しました。作者中川雨之助氏は人も知る新聞小說專門の大家で、多年練達の鋒に鐺る獨特の魅力に、到底他の作家の及ぶ處でないと信じます。殊に本篇は氏が最も油の乗り切つた最近の大力作であり、挿繪は斯界の新進近藤鐵氏の麗筆必ずや讀者諸君の大好評湧くが如きものあるであらうことを疑ひません。どうぞ御愛讀下さい。

**作者の言葉**

慶安太平記の立役者としては、何といつても智慧伊豆守松平信綱が、その第一人者に推されてゐる。

しかし、一代の叛逆児由比正雪を向ふに廻して、伊豆守をして、あれだけ鮮かな手腕を揮はせたのは伊豆守の背後に在つて活躍した隠密の手柄である。

後世の人氣が、兎角伊豆守にばかり集中されて居て、隠密の功績に拍手を送るもの〻無いのは氣の毒。

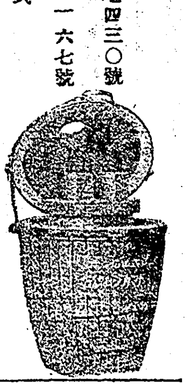
一將功成て萬骨枯るとはこれだ。

この一篇、敢て埋れ木となつてゐる隠密への筆供養である。

内臓外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話 五〇九

晝夜診療
外科一般　内臓外科
レントゲン科　泌尿器科
# 北川外科
（血液檢査毎日）
イツデモ入院デキマス。
平市新川町（電四六四）
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

實用新案 第一八七四三〇號
意匠登錄 第六六一六七號
石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保温力が强く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。



平市五丁目
和洋銅物金物問屋
(久) 釜屋商店

磐城の御みやげ品
名物 靈峰羊羹（みやま）（名産柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本 十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

見習徒弟募集
見習 徒弟 二十名
女 工 十名
年令十五六歳ノ方至急申込マレタシ
給料本人面談ノ上定ム
平市十五丁目
平特産 木工品 一式製作
佐藤木工所
電話 二五三番
振替東京五七一七六番
見習徒弟募集（男工初給四〇錢ヨリ 女工初給三〇錢カラ）

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油
たひら正宗
鰹節 食料品
釀造元
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

一、レンタン
一、豆炭
各種特價販賣
新炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス。
電話三七番
平驛前
(ツ) 阿部石炭店

御得意様への御禮に！
パーマネントウエーブは
今や…世界的流行であります

お値段（四圓…全部 三圓…普通）（寮院パーマネント部の一部）
水野化粧院
水野冬子
平市驛前 電六七八番
自宅 電五二五番

眼鏡
富豐に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡即時調製）

メガネは正確にして廉價
最新式 各國製レンズ
根本時計店
平市二丁目 電話六七

外科（内臓外科及一般外科）
X光線科、花柳病　岩手醫學士 萬波 勳
内科、小兒科　院長 前田清美
（自炊ノ便アリ 病室完備）
前田醫院
田町本町電話一二四番

外科、内臓外科
エツキス光線科　院長 安齋 徹
新設……産婦人科　醫學士 黒澤
入院隨意
平市田町
安齋醫院
電話四七五番

### 夜半の風雨止んで さくら見る人の喜び
#### 今ぞ三春の終曲近づく

さくら滿開の今日となつては、櫻花の雨一轉、花を散らすの雨となることそ哀れ深い。昨夜半の雨と風は愈よ花を最後に導くではないかを憂ひさせられたが、今十三日は險惡な夜半の天候を忘れたかの様な快晴、雨後の風に少しく底冷えは感ずるもの〻、再た來ん春を待たねばならぬ花見る人の心から早くより相當の人出があり、殊に午後一時の演藝時間前後に於ける舞台附近は殆ど身動きならぬ賑ひを呈した。△午後七時からは夜の演藝第一夜丈け晝にも劣らぬ人出に芋の子を洗ふ様な犇めき合が行はるるものと想像される。斯くして今年の花は開花後雨三回の雨に彌が上にも先を急がせられて來る十七日の日曜頃には縣社宵祭りの太鼓と城山の晩鐘各炭礦山神祭宵宮の煙火を木の頭に名殘り惜しい春のフィナーレを奏でる事になるであらう

### 花を伴奏役に 縣社のお祭り
#### なか三日に迫る

市の總鎭守たる縣社子鍬倉神社例大祭は來る十七日から二日間執行さるるが既に先月來十ヶ町に亘り、當番委員を擧げ諸般の準備中で殊に今年は市制第一次の祭儀なると且つ時局柄非常時突破、日本精神强調の熱意を以て奉仕すべく懸命に目論み中であると、概要次の如し

十七日　午前十時縣知事供進參向氏子役員參列例大祭

十八日　午前七時神輿出發全町青年團旗捧持稚兒の供奉神輿渡御には舊平町各青年團より二名乃至三名が共同奉仕

餘興　兩日共境内新舞台に於て各種斬新の餘興及び大花火、軍國レコードコンサート

又各町にて夫々町並裝飾十七日、十八日兩日に亘りて皇軍戰捷出征將士の武運長久祈願祭執行

### 平均十錢安
#### 俵米定期共販

十一日行はれた石城販聯の俵米定期共販は出荷千俵突破と云ふ近來の出廻增加を示したが要場左の如く最高は飯野二號の十三圓十錢、最低が草野の十二圓六十九錢、前回に比し平均十錢の低落だつた

平一二、七五　山田一二、八〇　勿來一二、八二　同二號一二、七六　大野一二、七二　同二號同、同三號一二、七三　渡邊一二、七八　飯野一二、八九　草野一二、六九　磐崎一二、七五　高久一二、七五　神谷一二、七一

### 市内各局から 支那事件公債賣出し
#### 例により好成績豫想

政府は愈よ明後十五日の當行を以て支那事件公債二億圓を日本銀行引受けによつて發行し、其の一部は例によつて市内各郵便局から十五日から三十日迄賣り出されるが要項は左記の通りである

一、名稱　三分半國庫債券(そ號)

一、償還期限　三十年八月一日(十七年三ヶ月)

一、額面金額種類　二十五圓　五十圓　百圓　五百圓(以上局に於て賣出し)千圓　五千圓　一萬圓　十萬圓の八種、價格は額面百圓に付九十八圓

一、利率　年三分五厘

一、利子支拂期　二月一日及八月一日の二回

一、初期利子(厘和十三年八月一日渡)額面百圓に付一日四錢

一、利廻歩合　複利三分六厘五毛、單利三分六厘八毛

因に平局に於ける右公債の割當て額は未だ不明であるが、從來の例に徴し、賣り出し早々兩三日を出でずして賣り切れるものと觀測さる

### 縣電氣協會
#### 廿二日植田で總會

縣電氣協會第三十三回總會は來る二十二日植田水力電氣株式會社階上に於て午前九時會議　十時表彰式　十一時慰靈祭　午後一時座談會の順序で開き、終つて午後五時半から美登利に於て懇親會を催すが、電力統制問題其他座談會に於ける話題は頗る豐富な事と豫想さる

### 強盜男護送
#### 化粧品も盜む

昨報、菅沼市長邸を荒したる強盜男紳永吉夫(三四)の身柄は引取りに來た高萩署片岡刑事に引渡され、昨十二日護送された

この男、女形役者の崩れだけに貴金屬の外湯本町では化粧品を盜んでスッカリ悦に入つてゐたとか

### 平局電話架設申請締切

平局の本年度電話架設申請は昨十三日を以て締切つたが總數百七十三口、割當見込十二、三口に對し實に十餘倍の多數である

### 高値で需要激增
#### 常磐炭界の明朗色

鐵道省の納入炭が一年契約として十三年度より總當り三圓五十錢の値上げを契約實施されてゐるをはじめ各方面的の値上りを示しつつある折柄、常磐地方各山元の發送高は依然增加の一途を辿り、軍需インフレの急需と價格の騰貴に炭界は擧げて稀有の明朗色を漂はせてゐる。即ち去る一日以降十日迄の常磐炭礦發送旬報を見ると

事業用六、三六六車七五、七六三瓲　鐵道用一、二五九車一五、五九一瓲　合計七、六二五車九一、三五四瓲

で事業用が千六百八十二車一萬五千七百二十四瓲の飛躍的激增を示した爲め鐵道用に於て八百三瓲を減じてゐるに拘らず、結局差引千七百十五車一萬四千九百二十一瓲の大增加となつてる

### 町村農會役職員表彰
#### 石城郡農會で

石城郡農會では此程左記町村農會役職員を表彰

植田會計　高木五郎　同書記　渡邊廣一　山田會計　久保木直亮　同書記　秋山實　上遠野書記　鯨田政雄　田人組合會長　小澤松太郎　飯野副會長　箱崎嚴三郎　同會計　永山菊治　夏井副會長　久保木政直　高久會計　鈴木正一　同評議員　鈴木重次　豐間顧問　鈴木政次郎　同　山野邊茂左衛門　小名濱評議員　小野長吉　同　松本福夫　玉川副會長　小泉忠文　同　遠藤喜三郎　磐崎評議員　大樂與五郎　同　酒井芳夫　湯本會長　仲里顯太郎　同評議員　矢吹莊司　內郷幹事　齋藤彌一　同書記　野木安吉　好間會計　中村登平　同技術員　三本菅潔　四倉評議員　櫻山淸四郎　同　遠藤寅雄　下小川組合會計　鈴木彌七　同顧問　柴崎佐之吉　草野評議員　片寄彌十郎　錦會計　下山田定弘　泉會長　上遠野定次郎　大野副會長　荒川唐幸　渡邊會計　橋本勳　勿來會計　赤津傳五兵衛　元會評議員　草野常彌　會書記　內田節太郎

### 木炭組合協議會

濱三郡木炭同業組合では十七日平團体事務所に平管內生產者荷主等を招き生產增加に關し協議

### 不明漁船歸る

昨報、十一日夜時化に遭ひ消息を絕つた四倉町の延縄船(九名乘組)は搜査の結果同夜に江名町永崎沖で進路を誤つたものだが昨十二日無事小名濱に入港した

### 煙草耕作の實行委員決まる

石城郡農會では十四年度からの煙草耕作に關し左記實行委員をあげ今後陳情其他に當ることゝなつた

郡農會長鯨淸昇、副會長金成淺治、泉村農會上遠野定次郎、勿來大平殖四郎、鹿島志賀直哉、磐崎織內孝平、大浦木村淸治

### 玉川の村葬

玉川村では前線に散つた同村住吉出身上等兵高萩平穗氏の村葬を二十七日午後一時から小學校で

### 中堅同窓會 謝恩會
#### 四百名の賑ひ

第十回石城中堅農民同窓會總會を此程平第二小學校に開いたが出席四百名、創設十週年を記念して謝恩會を開き左記關係者に記念品を贈つた、更に評議員三十名を表彰後貴族院議員松平外興麿男『時局について』滿洲國協和會主事島海篤助氏の『滿洲事業一般』と題する講演あり盛會裡に終了した

大山慶次郎(縣農會技師)　鈴木初三郎(在朝鮮技師)　郡農會菅山技師、柴田技手、內田書記

### 高値續きの駒セリ

豫想外の高値に人氣を呼んでゐる石城産馬畜產組合の春駒セリは中寺に次いで上遠野、黑田の兩市場が此程終了したが取引値は次の如く(その平均値は上遠野が昨年の七十圓三錢から百十七圓九十錢に、黑田は昨年の六十六圓六十四錢から百九圓九十九錢と云ふ高値に組合でもホク〳〵の態、尚未了は小川、川前兩市場の七月である

上遠野　取引價格二三、九二三圓、出頭二〇三頭　最高三一〇圓　最低五〇圓　平均一一七圓九〇錢(優良馬主)鈴木淸三郎　市川庫吉　佐藤富士太郎　平子熊太郎、小澤三郎　佐藤敏太郎

黑田　取引價格一六、一六九圓　出頭一四七頭　最高二五五圓　最低五〇圓平均一〇九圓九九錢(優良馬主)大和田福太郎　野崎辰造　綠川初太郎　小宅好文　綠川寛也　蛭田淸吉

### 葉櫻の候をトし 忠魂祭典執行
#### 來月十日ときまる

松ヶ岡の忠魂祭は例年四月十日、花の序曲として盛大に擧行されたが今年は靖國神社の臨時大祭後輝く戰死者を合祀するため延期、來月十日葉櫻の候をトして平市、在郷軍人會、町村長會聯合で擧行することになつた

### 陣中を聽く ……(129)……
### 共に入山で働いた 戰友渡邊君の最期
#### 入山從業員 細川宗太郎君(通信)

顧れば昨年〇月歡呼の聲に送られ郷關を出征致し、十月四日南支呉淞に上陸、支那膺懲の第一歩を印して以來上海方面第一の激戰に連戰連勝、追擊命令下るや泥濘膝を沒する行軍或は敵前架橋或は城壁枕にまどろみ故郷の夢を見る等南文より中支又は北支と轉戰又轉戰北支へ追擊途中の激戰で不幸にも自治會員渡邊由松君の名譽の戰死に會ひました。今涙ながらに其戰況を御知らせいたします。

去る一月二十八日我が〇〇隊は〇〇部隊の攻擊を容易ならしむるため敵陣地の地河(河巾約五十メートル)の渡河を命ぜられ折疊式舟による渡河を決行し渡邊君は第一舟の梶手をなし(私は其時第四船の運搬班)敵彈雨飛の中を勇敢にも漕ぎ出し對岸四五間の處にて不幸にも一彈は左胸部に命中『無念!』の一聲を叫んで櫂を持つたまゝ倒れたが友軍を上陸せしめつひに任務を完ふしました、約三里後方の野戰病院に送られ手厚き看護の甲斐なく午後十時頃遂に死去致してしまひました。

同郷の士にて又生死共にと誓ひし同部隊の渡邊君をかくて失ひました、死は元より覺悟はいたしておりますが、懐ひ出すも涙新にして筆取るも又愛し。

三十一日戰友の手により丁重なる茶毘に附するとき私も特に〇〇隊長に御願ひして會葬さしていただきました。渡邊君の身は北支の一點にて一片の煙と化するも必ず英靈は御兩親の胸に歸り安らかにねむつておられる事でせう、對岸約一ヶ師團の敵軍は少數なれども滅私奉公忠勇無比の我軍の强者に敵なく二日間の頑强なる抵抗も効なく多數の死體及兵器を殘して退却、我軍の大勝利となりました、これもなき渡邊君の尊き犧牲のたまものであります。

### 前線から寄附

市內下平窪出身後藤直次郎君は前線から第四小學校備品購入費として金五圓を寄附

### 老婆入水

飯野村小泉字西炭燒業登茂吉妻林みよ(五八)は十一日夜十時頃自宅附近の井戸で投身自殺を遂げた、原因病苦

### 産婆會總會

十八日午后一時から平勸業會議室に開き役員改選其の他を附議

### 亭主に搜索願

栃木縣鹽谷郡箒根村關谷捨次郎養子土木請負業石川三郎(三二)は去月十八日同縣矢板町に工事入札のため出張、課更まで飲んだまゝどこへか行方を晦ましたので妻女ハルさんから『女を同伴してゐるらしい』と平署に搜索願

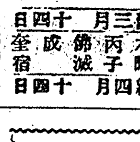
### 中堅生入所式

石城中堅農民講習生の今年度入所式を十一日平團体事務所で擧行した、男六四、女八名

### 巷の挨拶

上遠野村のお百姓志賀喜三郎(五七)さんは十一日夜上野署へ『二十圓盜られた』と訴へ出た、同日午後四時過ぎ御花見がてらの江戸見物に上京上野廣小路を歩いてゐると四十歳位の男が馴々しく『良い宿屋を世話しよう』と寄つてきた『よろしく願みます』で松坂屋裏のとある裏路地へ連れ込んだ　すると件の男俄にあたりを見廻し、側のゴミ箱の下へ紙片を蹴込みながら『百圓札だ、山分けと行かう』と小聲　そして『何分人目がある人通りが絕えるまで番を頼む』『俺はその暇に宿を決めてくるが山分けの保證金に二十圓預けろ』と老人の虎の子廿圓を受取つてそそくさと街へ—雨は降る、風は吹く、その中で待つこと一時間餘老人が怖々ゴミ箱の下を覗いて見たらナント『百圓札』はクシャ〳〵の模造紙だつたといふ話　刑事部屋で喜三郎さん『あゝおつかねエ、宿屋はコリゴリ』と世田谷下代田の親戚へ泊りに行つた

十四日(小名濱測候所發表)
滿潮　前三、三五　後四、五五
干潮　前一〇、三〇　後一〇、四〇



新四月十四日　木曜
舊三月十四日
丙子　佛滅　成　室宿

鑑定所　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神讀館

▲一白　火氣に勢力の加はり來る日なれば起業大吉▲二黑　諸事發展の好期に會し成就優秀たるべき日▲三碧　畫策は期待に反き逆境に陷らんとする凶日▲四綠　沈たい吟ぎんの日にて重爲は更に揚らざるべし▲五黃　濟紙は加はれども分限を超ゆる時は過ありて▲六白　遠方の取引は注意日常の營業には利益あり▲七赤　上下の尊信を保つに勸めけうまんないましむべき日▲八白　富貴榮達を極むべき日起業開店普請相談吉▲九紫　方針を誤り名譽をおとし損失をこうむる事ある日


おでん　一平(イッペイ)　電話二六三番

根本產婦人科專門醫院　平市南町五二　根本莊次郎　根本貞雄　電話三四番　(手術室完備)(入院隨時)

大幸館　東京上野驛前　下谷郵便局横通角　電話下谷㊄六十七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります　主人　比佐棟雄

◇銃後の守りは◇　愛國預金
株式會社　常陽銀行平支店　電話一三〇・一六四三
特色　當行は本預金の金額を以て新規に愛國公債を買入れます　從つて預金者各位は個々に愛國公債を御持ちになつたと同樣であります
規定のあらまし
一、御預け金は愛國特別當座預金通帳を以て何時でも出入自由であります
一、御預け入れは十圓以上何程でも御隨意
一、利率は日步計算にて特別當座預金と同一取扱であります
◎本預金にて公債御買入御希望の方には何時にても當行より御頒ち致します

獨特の珈琲とWINE　紳士の喫茶店　グリルバッカス
サービス料一割(外拜辭)　平市銀座通りTEL七〇二
女店員募集　年齡十七才位より廿五才位まで　月給四拾圓以上支給漸次昇給　待遇衣裳貸與食
何の氣苦勞もなく朗に働ける固定給料です　眞面目に働きたい方健實な生活を望まれる方は至急御出下さい　懇切に御指導致します

御料理　お花見には是非……　ときわ　電話二二六番